

# 鳥取市教育ビジョン「めざす子ども像」に関する委員および市民からの意見・感想とその対応

## (1)教育ビジョンめざす子ども像策定経過について

委員および市民からの意見	対 応
委員から出た「めざす子ども像」のところで、「子」と「子ども」の記述があったので、どちらかに統一してもよいのではないかと思います。	協議の中で出された表現をそのまま使用していますので、両方の記述が混在していますことをご了解ください。
○「志」と「ふるさと」の上下の位置は意図的であればイメージ図と合っているのでよいと思います。（「ふるさと」が下にあるのは、土台に「ふるさと」があるということですね） ○ 重点要素の「志」を上にもってきたのは意図があるのでしょうか。「めざす子ども像」の文からすれば、「ふるさと」が初めに来たほうが自然だと思われそうですが・・・。	「めざす子ども像」の文言の順番から、ご意見のとおり「ふるさと」を上、「志」を下に位置づけます。もちろん上下の位置づけに意味があるわけではありません。文言の順番にそらえます。
○ かつて薩摩や長州出身の若者が活躍した原動力は何であったか。それは薩摩の郷中教育であり、松下村塾の存在であった。その教育の中核をなすものは責任感・義務感・誠実といった、人間にとって最低必要な資質であり、志をもった有為な人間の育成であった。現在でも鹿児島や山口では郷土の誇りとして、その精神を受け継ぐ努力をしている。鳥取市の教育が目ざすものはどんな人間像なのか軸足がしっかり確立していることが必要である。また、市民にわかりやすく提示するには、どのような人間に育てて欲しいのか、具体的に簡潔な表現が求められる。 個人的資質の側面と家庭人、社会人、国民といった非個人的資質の側面に求められる徳目の並びが混在していて、すっきりしないように感じる。	どちらかというとい非個人的資質に関わる徳目（主として「他との関わり」「集団や社会との関わり」においてつけていく資質）は「ふるさと」を中心にまとめ、どちらかというとい個人的資質に関わる徳目（主として自分自身に関することでつけていく資質）は「志」を中心にまとめています。両者の徳目の配置バランスを考慮したため、混在している点は否めませんが、「鳥取市の子ども達に重点的につけたい資質」として「ふるさと」と「志」の両方の視点で力をつけていくというようにご理解いただけたらと思います。
○ ビジョンに「明日を担う人づくり」とあるが、是非「社会に役立つ人間づくり」をして欲しい。そのための「めざす子ども像」のキーワードに、「思考力」「がまん」「持久力」が必要。	策定会議の協議内容にもご意見にあるようなことについての協議がなされています。ご意見にあるような内容を盛り込むよう考えています。
感想 ○ 意識調査データを元に、協議された様子が丁寧に記述されており、策定経過がよくわかりました。 ○ 「めざす子ども像」に対して重点要素・必要な要素・意識調査のデータ等、項目ごとに分類されていて、つながりが分かりやすいと思いました。 ○ 短期間での策定作業で、座長さんと事務局は大変なエネルギーを注がれたと思います。お世話になりました。 ○ 意識調査に始まり、協議を重ねて選び抜かれた要素、そして最終的な「めざす子ども像」に至る過程が、構図として合理的にうまくまとめられている。 ○ 意識調査データも一覧の中に記されていることで、裏付けのある議論となっていてよいと考えます。	

## (2)「めざす子ども像」イメージ図について

○ もう少しスッキリした方が分かりやすい（色の濃淡により遠近感が出て変わるとは思いますが）	
○ 鳥取の自然・風土などあらゆるものを取り込もうとすれば、複雑になるのは当然ですが、もっとシンプルな図の方が意図を訴える力が強くなると思います。	色調を落とす等工夫して、もう少しスッキリさせます。
○ 意図的だと思うが、オオルリの大きさや不安を表す足は、修正した方がよい。	オオルリの大きさ・姿・足の状態を修正します。
○ 図の中に集団ということはどう表したらよいのか難しいですが、何か集団で鳥が飛んでいる場面があれば思ったりもしています。（でも、またたくさんになると焦点がぼけるかもしれませんが）	眼前に数羽配置し、集団という意味づけと目標という意味づけをもたせたいと考えています。
○ 「郷土」「家族」は「立志」「勇気」「思いやり」などの要素と違い、ベースになるものとしてその位置や表記を工夫できないでしょうか。	要素を絵にかぶらせるのではなく、「めざす子ども像」の文言と絵の配置、鳥の向き等を工夫して構成します。

○ メインのオオルリを中央にし、関係する要素を強調してはいかがでしょう。	オオルリが飛び立つ瞬間を描くということ、背景にふるさと鳥取を表す要素を配置するという意図があるため、オオルリを左側に配置しています。
○ 鳥を大きく鮮やかに。	可能な限り大きく、鮮やかにするよう考えています。
○ 背景はスッキリ。特に背景の色は、調子もトーンも抑え気味、コントラストを小さく。	温かさを醸し出すためにパステル調の色調にし、背景は抑え気味にしたいと考えています。
○ 右翼の要素「役に立つ・思いやり」に「助け合い」を外したのはなぜなのでしょう。	パソコンの操作ミスで、印刷されていませんでした。印刷時には当初案通り「助け合い」も入れています。
○ イメージ図の中で必要不可欠な要素(オオルリの子、オオルリの親、巣、山、川、海)が明確になるよう必要のない部分を削除しないと意図がわかりにくい。	背景のトーンを抑えると同時に、極力必要ない要素は省きました。
○ 人ではなく、オオルリを鳥取の子どもとしてイメージしているので、町並みは必要ないと考えます。	人の生活場面もイメージしてもらうため、背景に薄く入れるようにしています。ご了承ください。
感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 飛び立つ方向に虹・空が描かれていることで、夢や希望に向かって羽ばたくイメージで、拓かれた感じがしてよい。</li> <li>○ 全体的に鳥取らしさがふんだんに採り入れてあり、協議内容が全て盛り込まれているので素晴らしい。</li> <li>○ 見て驚きました。素晴らしいです。温かいイメージで私たち委員の協議した内容が盛り込まれています。</li> <li>○ イメージ図はそれを見る人それぞれの思いが違うので、客観的にこれが一番よいというものは難しい。私はイメージ図にはこだわらない。</li> <li>○ これ以上ない労作です。</li> <li>○ 子ども達が自然豊かな鳥取の中で、家庭・地域・学校に温かく支えられながら、人として必要な自主・自立、協力の精神を育み、志を立て、希望あふれる未来を信じて大きく羽ばたいていく姿が美しく描かれている。</li> </ul>

### (3)「めざす子ども像」(文章表現)について

○ 格調高い文章でよくまとめられていますが、「礎とならんことを願い」「人になるべく行動を」の部分は堅い感じがします。優しい表現になれば、市民が受け入れやすいと思いますがいかがでしょう。	全体の文面をできるだけ簡潔に分かりやすく、受け入れやすい表現にするように考えています。
○ 冗長。少しでも短くならないか。いいわけ部分は不要。前半は最後の4行、後半も最後の6行で十分ではないか。	
○ この文案を何回読んでも「ふるさとをおもい、志をもつ子ども」を育てる具体的な方法が見えてこない。こういう子どもに育てたいなら、日常的にどういう風に取り組みをし、夢や希望をもたせたいなら、夢や希望を抱けるような具体的な指導を示さないと、ただ、抽象的に「めざす子ども像」について述べても、ビジョンがただのビジョンで終わってしまう危険性がある。要は、実効を引き出す具体的な指導法を示す必要がある。	平成21年度に取り組むこととして、まずは「めざす子ども像」達成に向けた具体的施策の整備・立案が必要です。このことが、教育振興基本計画の策定につながるものと考えています。また、教育振興基本計画には、学校・家庭・地域それぞれにおいて「めざす子ども像」達成に向けたさらに具体的な取り組みを示していくよう考えています。
○ 「偉くなるのは損だ」という傾向が示されている全国調査も出されている の箇所は必要でしょうか。この一文があることで、立身出世という意味が強くなり、誤解を与えてしまう危険性が高いと考えます。	この部分は全面的に見直します。

<p>○「志をもつ子」は、<u>少々</u>の壁を乗り越えていこうとする…の下線の箇所は、「直面した壁」ではいかがでしょうか。</p>	<p>そのように修正します。</p>
<p>○ ビジョンについては一般的日本人が考える「よい子」としてのビジョンしかないように感じる。▼ただ単により子だけ育てても鳥取及び日本の将来で必要とされる人材になることはできない。▼世界に通用するスキルのある人材を育て、時代を担っていってくれることにより日本の将来は明るくなる。▼実際世界に目を見張ってみても、時代を牽引するのは秀でたアイデアを実現してきた人たちであり、鳥取市からもそのような人材を生み出していくことを考えるべきである。▼ビジョンにある考え方は、全体を底上げする考え方であり、戦後の高度成長期の時代には労働力不足を補う上でマッチした考えであったが、今時代は労働力よりアイデア力や革新性を求める時代になってきている。▼今回のビジョンの対象が「幼稚園」「小学校」「中学校」であることから、このような教育方針は早急すぎるという意見もあるだろうが、それは違う。▼むしろ、小学校中学年ぐらいから世界動向について教え、その中で自分はどう生きていかないかといけなから考えさせていく必要があり、特に具体的な将来の夢が決まり始める中学校時代には社会人になるための基礎的な素養を身につけはじめなければならない。▼具体的にいえば、今の日本人に欠けているのは、情報力と英語力である。▼情報力については以外と思われる人もいるだろうが、実際今の学生は携帯電話で調べられる範囲しか知ろうとせず、パソコンを使って広域的に調べていこうということが少なくなってきている。▼英語力については言わずもがな、これからの世界で生きていくには必要最低限のスキルであり、日本語と英語のバイリンガルを育てていく必要がある。▼反論する人は実際に情報力と英語力を鍛えていく政策をとったアジアの各国に世界競争力ランキングであっさり日本が抜かれてしまった現実を直視すべきである。▼もう一度社会的見地のある有識者で鳥取市教育ビジョンについて叩き直し、強い人材を生み出していく土壌が鳥取市にできるようにする必要があります。</p>	<p>国際化に対応した子ども像についての議論も策定会議で出されています。(例えば「日本の若者は他国の若者に比べて将来に夢や希望を持っている者が少なく無気力である。自立心ややる気を育て、たくましく自らの人生を切り拓く力を育てる必要がある。」「国際化に対応するという事は、出て行っても負けない子、がんこな子を作れということだ。」というような意見が出されている。会議録参照)「情報力」「英語力」をつけることもやはり協議の視点の中には出てきています。こうした点をふまえ、平成21年度策定の「教育振興基本計画(仮)」には、どういう意図で、どういう力をつけていくことをねらうのかについても示した事業のあげ方を考えています。</p>
<p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小中学校の保護者には理解できると思いますが、幼児期の家庭には少し難しいように思います。しかし、将来を見通した子ども像として定着することを願っています。</li> <li>○ 覚えやすく、誰でもすぐ言える言葉でよいと思います。「ふるさと」と「志」の言葉があり、気に入っています。</li> <li>○ 短い言葉の中に、深い思いが込められていると思います。</li> <li>○ 「ふるさとをおもい」からは、郷土を大切にすることを育み、将来鳥取との関わりを大切に、鳥取を支えていこうとする人材として成長していく姿が期待される。また、「志をもつ子」からは、大志を抱き刻苦勉強し、自己を実現させていく逞しさが感じられる。「めざす子ども像」としての様々な要素を包含し、平易な言葉で簡潔にまとめられた表現である。</li> <li>○ 「ふるさとをおもい、志をもつ子」に込められた強くて熱い思いが、鳥取市全ての人々に伝わり、理解と協力が得られるよう、あらゆる場面を活用した広報活動と同時に、PTA活動、地域(公民館)活動の中で今回のような議論ができる場の仕掛けも必要と考えます。「ふるさと」の原風景の大切さを理論的に理解できることでまた「ふるさと」での体験や経験の必要性が地域や家庭の中に浸透していくのだとも思います。私も身近なところから始めたいと思っています。</li> </ul>	